JRAT 活動の経過

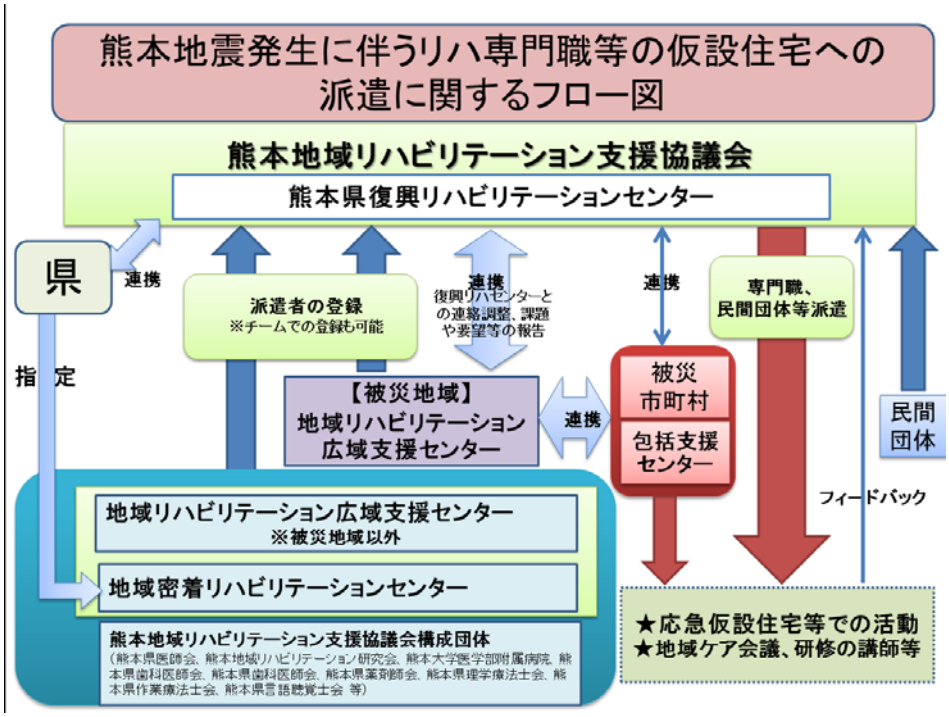
JRAT 広報委員　（熊本機能病院）中島　雪彦

4 月 15 日の前震後より活動を開始した JRAT も、7 月 3 日の鳥取 JRAT を最後に全て熊本 JRAT に引き継がれた。その後 JRAT 活動も 7 月 16 日の派遣をもって全て終了した。JRAT 活動には 34 都道府県より参加した。

6 月に入ると応急仮設住宅の建設が始まり、これまでの避難所における環境整備や DVT 予防などの活動から、仮設住宅の環境評価や改修の提案などと現場のニーズが移っていった。さらに一部の地域は同一圏内の広域支援センターによる支援に引き継がれ、7 月からの JRAT 活動は 1 チームのみへと縮小した。JRAT の撤退後は「復興リハビリテーションセンター」が 7 月 14 日付けで発足し引き継がれることになった。

平成 12 年に始まった厚労省の地域リハビリテーション支援体制整備推進事業に合せて、熊本では関係団体（現在は 21 団体）で構成される熊本県地域リハビリテーション支援協議会が発足し事務局を県医師会に置いた。後に熊本県よりリハビリテーション支援センターの指定を受け、広域支援センターへの指導的役割を担ってきた。今回復興リハビリテーションセンターはこの支援協議会に指定される事となった。

県は平成 29 年度事業で地域リハビリテーション活動支援事業の一環として、広域支援センターと同一圏内に地域密着リハセンターを指定する事になっていた。しかし今回の熊本地震を受け、事業前倒しで災害リハ支援に取り組むことになった。今後、広域支援センター並びに地域密着リハセンターは復興リハセンターに人材登録をし、官民一体となり圏域を超えて支援を行う事となる。



熊本県会議資料より